

令和 8 年度 岡山市 英語教育改善プラン

目標

身に付けた知識を活用することで「伝わった喜び」を感じられる授業づくりの推進を図るとともに、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成する。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「パフォーマンステスト等においてALTを活用できているか」の各学校の肯定意見が85%と高い。

(R7ALTアンケートより
十分活用できた:33%
活用できた:52%)

②「ALTといっしょに勉強することは楽しいですか。」の肯定意見が高く、授業においてALTとの活動を楽しんでいる児童が多い。

(R6ALT評価アンケート結果より
肯定的な評価:91.1%)

未だ改善が必要な点

①「私は、外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答える」の結果において、向上が見られなかった。

(R7岡山市教育に関する総合調査より
R6:58.8%⇒R7:56.7%)

2. 要因分析

①研修会や説明会において、ALTの事例を示したことによって、各学校における活用状況が改善したと考えられる。また、ALTが児童と積極的かつ前向きに関わっていた。

②授業の内外にかかわらず、児童がALTと接することができる環境を整備し、異文化や生きた英語に触れる機会を充実させたことによって、ALTとのコミュニケーション及び外国語学習に肯定的な児童が増加したと考えられる。

①授業の言語活動の場面設定と外国の人に話しかけられるという状況とが接続しておらず、児童にとって英語によるコミュニケーションが身近に感じられなかったと考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①主体的にコミュニケーションを図る児童の育成

授業研究会や校内研修等の機会を通して、児童が「伝わった喜び」を感じられるコミュニケーションの目的・場面・状況が明確に設定された言語活動の普及を図るとともに、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

②児童が伝わった喜びを感じられる言語活動

ALTを積極的に授業に参画させることで、児童がALTとやり取りする場面をより多く確保し、児童が英語でコミュニケーションをとることの楽しさや伝わった喜びを感じられるような機会の充実を図る。

◇一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組◇

各資格・検定試験の基準を選考試験実施要項に示し、受験区分に「英語枠」を設けている。それらの基準を満たす資格所有の有無を採用する際の考慮事項としている。

令和 8 年度 岡山市 英語教育改善プラン

目標

身に付けた知識を活用することで「伝わった喜び」を感じられる授業づくりの推進を図るとともに、主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 52.0% ⇒ R8 : 60%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語の授業におけるオンライン英会話を実施した学校の割合が全国平均よりも高い。
(英語教育実施状況調査より「オンライン会話」実施校
(岡山:26.3%、全国:25.6%))

②CEFR B2以上の教員の割合が増加した。
(R7英語教育実施状況調査より
R6:36.5%⇒R7:44.8%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A1以上の生徒の割合が減少した。
(R7英語教育実施状況調査より
R6:56.5%⇒R7:52.0%)

②R7岡山市アセスの英語の領域【聞くこと】の結果が全国平均よりも低い。
(岡山:1年83.4%、岡山:2年59.8%)
(全国:1年84.5%、全国:2年61.4%)

2. 要因分析

①GIGAスクール構想が浸透し、一人一台端末の有効な活用法が学校間で共有された。また、生成AIを活用することで生徒のアウトプットに対するハードルを下げるのに効果的だったと考えられる。

②「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」と英語資格・検定試験の特別受験制度について周知し、実技レベルの向上につながったと考えられる。

①ペアやグループで言語活動が行われているが、定着のための家庭学習やふりかえりにつながらなかった。見取りに基づく即時フィードバックが十分に機能していなかったと考えられる。

②「読むこと」「書くこと」の結果と比べて「聞くこと」の結果が低いのは英語特有の音声変化に対応できていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①生徒の英語力の向上

生成AI活用の研究指定校の取り組みを共有し、有効な授業実践を普及することで、授業内の言語活動の割合の向上及びICTや生成AI活用の促進を図るとともに、生徒の英語力向上を図る。

②①特別受験制度及びALTの活用促進を通じた教師の英語力の向上
教員を対象とした英語資格・検定試験の特別受験制度を活用した資格取得を引き続き促す。授業全体を実際のコミュニケーションの場面となるよう「ALTの活用」→「教師の英語力の向上」→「教師の授業内の英語発話量の増加」→「生徒の英語力向上」へとつなげていく。

①生成AIを活用した英語力向上事業

生成AIを活用した英語力向上事業を研究指定 6 校が取り組む。活用することで、言語活動をさらに充実させ、フィードバックを通して生徒の英語力向上を図る。生成AIを活用した壁打ち練習からペアでの実践、ALTとのやり取りを通して「伝わった喜び」を感じられる授業づくりの推進を図る。

②デジタル教科書やICT機器を活用した音声指導の工夫

実際の英語の速さ、音声変化に慣れるために、音読練習を繰り返すなど、実際の英語を聞き練習する活動をデジタル教科書やICTの音声を活用する工夫や有効な実践授業の好事例について英語通信を発行して共有する。

令和 8 年度 岡山市 英語教育改善プラン

異なる国の人や文化を身近に感じる機会を増やし、積極的に世界の人々とつながろうとする生徒を育成する。

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合50%を目指す。
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合20%を目指す。

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒・英語担当教員の英語力の状況が向上した。
(市立校は1校のため非公開)
- ②「授業だけでなく、校外の企画などでも「国際理解教育」が充実している。」の肯定意見が高い。
(令和7年度教育に関する総合調査：84.4%)

- ①「私は、校内外で「異文化理解」や「国際理解」の企画に参加したことがある。」の肯定意見が50.9%と企画が充実している一方で参加傾向が少し低い。
(令和7年度教育に関する総合調査より)

2. 要因分析

- ①「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」の受講の促進や、ICTの活用、言語活動、ALTの常駐でコミュニケーションの機会が確保されたことで、生徒・英語担当教員の英語力が向上したと考えられる。
- ②国際理解教育として、外国語学習の充実、海外留学、海外研修を行っていることが、肯定意見が高い結果につながっている。

- ①企画自体は実施されているものの、生徒が主体的に参加しやすい環境づくりが十分ではないと考えられる。特に、英語での交流に対する不安や、活動を身近に感じにくいと感じていたり、活動の内容や成果が十分に共有されていなかったりすることから、他の生徒の興味や関心が高まりにくくなっていると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①言語活動の充実
CEFR A2レベルの英語力を有する生徒を育成するために、思考力、判断力、表現力等の育成に重点を置き、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて習得した知識・技能を活用することができる言語活動をICT等を活用して工夫する。また、ALTとの言語活動を通して、実践的なコミュニケーション力を養う。
また、ALTを常駐させることで生徒とALTがコミュニケーションを図ることができる機会を確保し、生徒の英語力の向上を図るとともに、英語による言語活動の充実を図る。
- ②①教師やALTが積極的にサポートする
国際交流活動等につながる学習となるような授業案を計画したり、交流場面でうまく伝えられなかったことを次の機会ではよりよく伝えられることができるよう自己調整したりするなど、学習と実践（交流）との往還を図ることで、前向きに国際交流活動等に取り組める生徒の育成を目指す。

目標達成状況一覧表

岡山市教育委員会

令和8年度様式（様式2）
岡山市教育委員会管轄の高等学校は1校
のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)											
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)											
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		100	100	100	100	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	100	100	100	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	0	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)											
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		100	100	100	100	100	100	100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		50	53.1	55	56.5	60	52.0	60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		100	88.6	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	97.4	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	84.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	97.4	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		50	40.7	50	36.5	50	44.8	50		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		100	92.1	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	36	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	83.7	100		100		100		100	